

高館山のモミ・ウラジロガシ林について

宮城県農業短期大学 菅原 亀悦

名取市高館の館山（標高約190m）は通称高館山と呼ばれ、名取平野を一望に見渡すことができる景勝の地である。この山の頂に熊野那智神社がある。この神社の境内に接して、平野側に面している南東斜面は小面積ではあるが、この地域としては珍らしく、よく自然が残され、モミが混じりウラジロガシ、シラカシなどの常緑広葉樹が優占する林になっている。常緑広葉樹が優占する林は、筆者の知る限り、宮城県内陸部においてこゝより北には見当たらず、貴重なものと考えられるので報告する。

この林の組成と主な樹種の高さとうち高直径を調査したのが下記のとおりである。

モミ・ウラジロガシ林の組成

方位S40E, 傾斜32° 面積20m×20m

高木層: モミ 3 シラカシ 3 ウラジロガシ 2 シイノキ 2
(10~28m)

亜高木層: イヌブナ 1 ウラジロガシ 1
(2~10m) カヤ 1 アワブキ 1 シイノキ 1 ヤブツバキ + シラキ + アオハダ + ハウチワカエデ + ヒノキ +

低木層: ヤブツバキ 1 アオキ 1 ウラジロガシ 1 クマザサ 1 ササ sp 1 ヤブムラサキ + イヌガヤ + シロダモ + モミ + ヒノキ +

草本層: ヤブコウジ 2 ジャノヒゲ 1
(0.4~0.4m) テイカガツラ 1 カヤ + ウラジロガシ + ムラサキシキブ + シラカシ + マツブサ + オクモミジハグマ + オオバクロモジ +

主な樹種の高さと胸高直径

樹種名	高さ	胸高直径
モミ	28m	90cm
シラカシ	25	90
シラカシ	22	22
ウラジロガシ	20	13
ウラジロガシ	15	13
シイノキ	15	26
シイノキ	15	20
シイノキ	7	9
シイノキ	7	4.5
シイノキ	6	7
シイノキ	4	2

上記のように高木層はよく発達し、樹高28mに達するモミの大木と樹高15~25mのシラカシ、ウラジロガシ、シイノキなどの常緑広葉樹が混生している。これらの樹冠は密なため林内は一般に暗く、下生植物の生育はよくない。亜高木層にはウラジロガシ、イヌブナ、カヤ、アワブキなどが散生する。低木層には、ヤブツバキ、アオキ、ウラジロガシがみられ、林床には、ヤブコウジが多く、ジャノヒゲ、テイカガツラなどの陰性植物がみられる。この林の組成は亶理町附近でみられるウラジロガシ林（ウラジロガシ—アカガシ群落、吉岡1957年）や仙台附近のモミ—イヌブナ林（モミ—イヌブナ—スズタケ群落、菅原1969年）の組成と共通するものが多い。従って、この林は福島県久の浜町より太平洋沿岸平地を北上し、亶理町までつくくカンシ北限地帯から仙台附近の極相モミ—イヌブナ林地帯へ移行する推移型の群落と考えられる。この群落はモミ・ウラジロガシ—ヤブコウジ群落と名づけることができる。モミのほかウラジロガシ、シラカシ、シイノキ、ヤブツバキ、テイカガツラなどの暖地

系植物を豊富でイヌブナ、アオハダ、ハウチワカエデなどの落葉広葉樹を含んでいるのが特徴である。シラカシ、シイノキがこの群落内にみられることは興味あることで、これらが自然分布かどうかは検討を要することであるが、成木のほかに若木や稚樹などもみられることから自生状態になっていることは確かである。とくにシイノキの分布は貴重で亶理町称名寺のシイノキは樹令550年と推定される大木であり、天然記念物に指定され、分布の北限といわれ県下唯一のものである。もしこの高館山のシイノキが自然分布と考えられ

るならば、宮城県の第二の産地で、太平洋側における分布の北限であると考えられる。

このように高館山のモミ・ウラジロガン林は小面積ではあるが、学術的に価値が高く、この附近の自然を知る上に重要な手がかりを与えるものと思われる。また、この神社の境内には樹高32m、胸高直径115cmのコヤママキがあり、宮城県では最大級のものと推定され、これら合せてこの地域を大事に保護する必要があると考えられる。

宮城県内植物群落調査ノート (1)

東北大学理学部生物学教室 菊池多賀夫

1. 手倉山ブナ林

日本列島のブナ林は大きく2型に分かれることが知られている。1つは日本海側に分布してブナとチシマザサの結びつきに代表される型で、他の1つは太平洋側に分布するブナとスズタケの結びつきに代表される型のものである。宮城県では脊梁山脈に広くブナ林が残されているが、これは日本海型のブナ林で、太平洋型のブナ林の例として知られているものは多くはない。ことに広い面積にわたって残されているものとなると、金華山島のものほかほとんど知られていなかった。手倉山ブナ林は、手倉山の山頂から北斜面にかけて相当地に広い面積にわたって残存しており、林相もよく保存されている。まだ群落的な調査はないが、北限に近い地域の太平洋型のブナ林の例として貴重なものである。

次に群落調査の1例を記す。将来の本格的な調査の参考になればさいわいである。表中の群落調度はブロンブランケの優占度(左)と群度(右)である。

標高660m, 方位N20°E, 傾斜角度15°, 1972年9月26日調査。

高木層: 6—20m, 植被率100%,

ブナ 3.3, イヌブナ 2.1, ミズナラ 2.1, モミ 1.1, ヒトツバカエデ +, ホウノキ +, アズサ +
亜高木層: 2—6m, 植被率20%,

シロヤシオ 1.1, コシアブラ 1.1, リョウブ +, アカンデ +, タカノツメ +, マンサク +, シラキ +

低木層: 40cm—2m, 植被率30%,

ブナ 1.1, ヒトツバカエデ 1.1, シロヤシオ 1.1, イヌブナ 1.1, ヒロハツリバナ +, オオバクロモジ +, ミヤマガマズミ +, ヤマウルシ +, ナツハゼ +, オトコヨウゾメ +, アズキナシ +, コハウチワカエデ +, バイカツツジ +, ツクバネウツギ +, トウゴクミツバツツジ +, リョウブ +, ツクバネ +

草本層: 0—40cm, 植被率40%,

オヤリハグマ 1.1, シロヤシオ 1.1, リョウブ 1.2, イワガラミ 1.2, ハウチワカエデ +, ウリハダカエデ +, オクモミジハグマ +, ツクバネソウ +, ウスノキ +, マンサク +, ウスバサイシン